

加藤ニ吾 かとう にご 民俗學者。慶應元年十月六日陸奥國弘前生れ、昭和十  
四年四月六日歿（八五—一九三九）。號半土濱人、無我居士、無我生等。

明治十六年上京して攻玉社に入り、その後教授。また、浄土宗第一教授  
教授を兼任中、同僚の漢文書道教授で舊佐倉藩儒倉田幽谷の漢詩を學  
び、のち二十六年その長女順子と結婚。同年科学下佛教ノ調和（九  
月十一日自刊、共益社書店發賣）を處女出版。二十二年沖繩に渡り、  
教職の傍ら琉球研究に没頭、論文を『琉球新報』、『東京人類學會雜  
誌』に發表。次で『琉球の研究』全三冊（上巻・明治二十九年十月十  
八日、中巻・二十二年五月、下巻・四十年七月）を自刊（著はして、  
この分野での先驅を成した。その後長崎、東京で教職。歌人水上すゞ  
子は次女。

その餘の著書は、『平戸しるべ』（明治四十五年五月）二十七日自刊。の  
ち『增平戸しるべ』大正十一年十二月一日自刊、長崎・平戸史談會（  
『三浦の安針』（大正六年四月、明誠館書店）等。外崎克久著『北の旅  
人—加藤ニ吾傳』（昭和五十一年八月）四日自刊。のち『北の旅人—  
沖繩に魅せられた教師加藤ニ吾の生涯』（五十七年八月）二十五日御茶の  
水書房）がある。

